

## 第17回スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム (SCRP) 参加報告

歯学部教授 安彦 善裕

今年も8月19日、本学歯学部の学生がSCRP日本代表選抜大会に参加してまいりました。SCRPは学生が自ら研究を行いその成果を発表する場であり、優勝者はアメリカ歯科医師会主催の世界大会に招待されます。世界大会への切符のため、発表はすべて英語で行われます。今年も、5年生の原田文也さん、都倉堯明さんが放課後や休日を返上して行った研究成果を発表致しました。タイトルは“Extension of life-span of Cultured Epithelial Cell Rests of Malassez with Rho Kinase inhibitor” (Rhoキナーゼ阻害剤によるマラッセ上皮細胞の培養寿命の延長)です。歯根膜の中に存在するマラッセ上皮細胞は歯の再生のための資源としての期待が高まっており、単離培養することは可能ですが、歯の再生に必要な量を得るための長期にわたる培養が困難です。そこに着眼し、Rhoキナーゼ阻害剤という薬剤を添加することにより簡単に長期培養が可能にしたというものです。事前にプレゼン



写真左から、青木さん(臨床研修医、第15回大会参加)、植原さん(大学院生、第12回大会参加)、都倉さん、安彦教授、原田さん、原田先生(歯学部臨床教授)、長野先生(歯学部助教)

テーションの練習を致しましたが、発表者の原田さんの英会話の能力には驚かされ、「これならいける!」という期待を膨ませながら送りだすこととなりました。発表は、一般公開されず、審査員数人の前で行われましたので、発表そのものの様子はわかりませんが、発表後の一般公開の部屋に入ると、やりきった学生の熱気と余韻がつづ

さに伝わってきました。結果は、参加歯学部21校中、惜しくも準優勝以内に選ばれませんでした。その場に立つまでの二人の努力には本当に敬服の外はありません。この経験はきっと近い将来、二人をプラスαの歯科医師に育ててくれるものと信じております。

### EDITOR'S NOTE

師走に入り、大雪(たいせつ)、冬至を迎え、雪の季節がやってきました。2011年は東日本大震災を受け、多くのことを感じ、学び、行動した年となりました。個人や医療人、団体としての様々な活動を通して、「絆」の強さをあらためて感じました。台風や洪水も日本や世界の各地で発生し、気候変動の影響を実感した年でもありました。

さて、いよいよ2012年6月には、JR学園都市線(桑園～北海道医療大学間)が電化され、電車が開通します。所要時間短縮のほか、CO<sub>2</sub>排出量削減や騒音低減など、人にも環境にも優しいサービスが期待されます。師走に入ると慌ただしくなりますが、元気に新年を迎えられますことを願っています。

(S.M記)

## ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.149

STAFF ● 増田 園子 浜上 尚也 安彦 善裕 中山 英二  
 鎌口 有秀 志渡 晃一 竹生 孔子 富家 直明  
 榊原 健一 杉原 佳奈 長原 利明 宮崎 隆志  
 宮川 雄一 戸藤 成人

発行日 ● 2011年12月21日

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課  
 〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757  
 ☎(0133)22-2113  
 http://www.hoku-iryu-u.ac.jp

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。  
 E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp



■北海道医療大学の教育理念  
 生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。